

梅原の子

Umehara Elementary School
梅原小学校 学校だより
令和6年6月25日号

令和の「こどもまんなか学校」 梅原小学校

校長 埴岡 靖司



5月30日(木)に行いました梅原小学校学校運営協議会において、『地域の中核となり共に歩む、令和の「こどもまんなか学校」』をめざして取り組んでいくことを承認していただきました。梅原の地域は、学校・公民館が隣接しています。そして、常日頃人の出入りがある地域です。また、これまでの人々のくらしと歴史を共に大事にしてきた地域です。このように素敵な地域で、子どもがすくすく育つことをめざして取り組みを進めています。

学校だけではできない、多くの体験から学びを広げる

今年も田植えを体験しました。おぼつかない姿勢で、一生懸命苗を植えていました。最初は、田に入ることをちゅうちょしていましたが、入ってしまえば「気持ちいい」「楽しくなってきた」との声が聞こえてきました。田植えが進んでいくと「腰が痛い」「疲れてきた」との声も。体験したからこそその声が聞こえてきました。地域とのつながりを実感する場でもありました。

「やってみる はなしてみる かんじてみる」⇔「かんじたこと、おもったことをつたえる」

問題や課題をもって活動し、わかったことをまとめるという学びがあります。感じたことや思ったことをたくさん書き出して、問題や課題を整理するという学びもあります。その学びを支えとなっているのが、梅原の地域のみなさんとの体験活動です。

見て、考えて、判断して、行動する子が育つ学校

熱中症にかかわるニュースが、毎日のように報道されています。この時期の学校安全の最重要項目です。子どもに多くの活動をさせてあげたい。でも、子どもの安全を守りたい。本当に悩ましい時期でもあります。

そこで、学校では、熱中症計を設置しています。WBGTの値が28度を超えると、活動を制限しています。だから、休み時間になると、何人もの子どもたちが熱中症計を見に行き、数値を読んで、一喜一憂しています。これまでは、「先生、今日は遊ぶことができますか。」との声が飛び交っていました。今は、「今日は数値が高いから、外で遊べないね。」と。熱中症計を準備して基準を示すことで、自分で判断して行動できる。素敵な姿が育っています。

「こどもまんなか学校」は、私たち大人が環境を整えて、大きな心で見守ることで実現できると考えています。家庭を含む地域の皆様に大きな心で見守られている梅原小学校は、「こどもまんなか学校」にどんどん近づいています。いつもありがとうございます。